

図書日和 6月号

梅雨の時期になり、これから雨が降ることが多くなると思います。そこで今回は「雨」をテーマとした本を紹介します。内容がとても深い本ばかりです。

「黒い雨」 著：井伏 鱒二

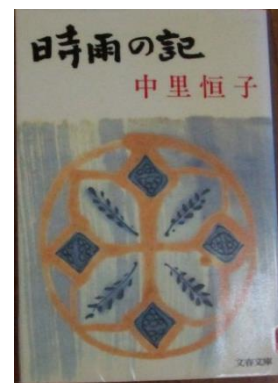
黒い雨は、原爆を落とされた広島を舞台に、罪のない市民が負わなければならなかった未曾有の惨事を直視し、一被爆者と“黒い雨”にうたれただけで原爆病に蝕まれてゆく姪との忍苦と不安の日常を、無言のいたわりで包みながら、悲劇の実相を人間性の問題として鮮やかに描く。被爆という世紀の体験を日常性の中に文学として定着させた記念碑的名作。(本書より引用)

作品の中には、今の日本では考えられないような描写がたくさんあり、当時の日本の過酷な様子や、戦争の大変さなどを感じ取ることが、平和の大切さについても考えることのできる作品になっています。



「時雨の記」 著：中里 恒子

知人の華燭の典で、二十年ぶりに再会した実業家と、夫と死別して一人けなげに生きる女性。人生の秋のさなかで、生涯に一度の至純の愛にめぐり逢った二人を描き、人の幸せとは？ 人を愛するよろこびとは？を問う香り高い長編小説。(本書より引用)



今月の展示コーナー

今月のテーマは、「白い本」です。表紙が白い本を集めてみました。見た目だけでなく、中身も面白い本がたくさんあります。展示コーナーは図書室に入ってすぐのところにあります。



新しい雑誌が入りました！

「non-no」、「月刊バスケットボール」、「ニュートン」などに加えて、「アニメージュ」、「Seventeen」、「オートメカニック」などが入りました。

スポーツ、ファッションなど、様々なジャンルを取り扱っています。気軽に読めるので、立ち寄ってみてください！

